

# 支援機器が拓く新たな可能性

～我が国の支援機器の現状と課題～

2008年3月

生活支援技術革新ビジョン勉強会報告

# ◆◆◆◆ 目 次 ◆◆◆◆

はじめに ～イノベーション for ノーマライゼーション～

I 総論	1
1. 今、なぜ支援機器か？	1
(1) 高度化、多様化する支援機器	1
(2) 自立支援の理念の普及	1
(3) 障害者の意識の変化	2
(4) 社会環境の変化	2
・「支援機器」の用語について	3
・障害者権利条約における支援機器関連条項(抜粋)について	3
2. 支援機器の分類	6
(1) 身体に対する密着度による分類	6
(2) 支援機器の機能による分類	7
(3) 重症度別による分類	7
(4) 生活環境による分類	7
・ISO9999「福祉用具の分類と用語」について	8
・「ユニバーサルデザイン」と「オーファンプロダクツ」	9
3. 開発から普及まで	10
(1) 支援機器開発の流れ	10
(2) 支援機器の開発	11
(3) 支援機器の供給、適切な利用及び普及	12
・「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」 における対応について	13
・最先端技術の例	14
4. 品質と安全基準	16
(1) 支援機器の安全を確保するための規格や基準	16
(2) 品質の確保	16
・福祉機器の国際標準及び各国の規格・安全基準等の 概要について	17
5. 価格	18
(1) 価格設定のルール	18
(2) 高額な支援機器への公的給付のあり方	18
・「フィッティング」について	18

6. 補装具と日常生活用具	19
(1)補装具費支給制度の現状	19
・補装具評価検討会について	23
(2)日常生活用具給付等事業の現状	24
(3)今後の課題	26
7. これからの支援機器を考える視点	28
(1)社会全体のフレームづくり	28
(2)基礎研究、技術開発、産業政策	28
(3)人材育成・教育	29
(4)地域、家族、介護者	29
(5)住宅、交通政策、就学、就労との連携	29
(6)国、地方、企業の役割	30

## Ⅱ 各論 ..... 31

1. 情報・コミュニケーション等の支援	31
(1)視覚の障害	31
(2)聴覚の障害	34
(3)視覚と聴覚の重複した障害(盲ろう)	37
(4)認知の障害	38
(発達障害)	40
(高次脳機能障害)	41
(5)今後の対応(情報・コミュニケーション等の支援)	42
2. 移動の支援	44
(1)装具	44
(2)義肢	46
(3)車いす	47
(4)福祉車両	49
(5)今後の対応(移動の支援)	52
3. 生活環境、住環境等	54
(1)生活環境の整備	54
(2)公共空間におけるバリアフリー情報支援	57
(3)IT機器を活用した見守り支援システム	61

<b>Ⅲ 関係機関の取組等</b>	.....	<b>64</b>
1. 支援機器をめぐる関係機関	.....	64
2. 財団法人 テクノエイド協会	.....	65
3. 独立行政法人 福祉医療機構	.....	67
4. 社団法人 シルバーサービス振興会	.....	67
5. 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	.....	68
6. 独立行政法人 情報通信研究機構(NICT)	.....	69
7. 国際福祉機器展(財団法人 保健福祉広報協会)	.....	70
8. 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所	.....	71
9. 今後の対応	.....	73
<b>Ⅳ まとめ ～「夢」の実現に向けた7箇条～</b>	.....	<b>74</b>
生活支援技術革新ビジョン勉強会の経緯	.....	78

# はじめに

～イノベーション for ノーマライゼーション～

- 我が国の障害者施策は、「ノーマライゼーション」の理念に則り、障害のある人もない人も、誰もが地域で安心・安全に、自立した生活を送ることができる社会（共生社会）の実現に向け、「障害者基本法」の改正、「障害者自立支援法」の施行等を重ね、弱者保護から自立支援へと大きく転換してきた。
- 今後、超高齢化社会を迎えようとする我が国で、『イノベーション25』や『新健康フロンティア戦略』等を実効あるものにし、障害のある人が自らの人生を地域で豊かに暮らすためには、「人」の支援だけでなく、「生活支援技術及び機器」を積極的かつ効果的に活用することが求められている。また、介護負担の軽減や支援の効率化の視点から、介護等の支援者を支援する手段としても現実的かつ有効であると思われる。
- しかし、支援機器を必要としている誰もが容易に入手でき、適切に使用できるための指導、助言、選定、適合、調整等の体制整備や、安全基準、適正価格に対する制度は十分なのか、また、そもそも支援機器の研究開発は障害者や高齢者の特性やニーズを汲み上げているか等の課題もあり、先端技術を導入した支援機器の研究開発や普及は、国として急務な課題である。
- 本勉強会においては、平成19年9月から計9回にわたり、障害当事者でもある支援機器に関わる研究者、企業、関係機関、NPOなどから幅広くヒアリングを行い、支援機器の現状と課題について、可能な限り網羅的な整理を試みた。
- 本報告書は、支援機器の開発と普及に関し、今後、取り組むべき課題を洗い出すことに重点をおいた『宿題集』となっている。
- 支援機器の新たな可能性を最大限に引き出すための研究開発や、その普及を目指して、すみやかに関係者が一致協力して取り組むことが必要である。